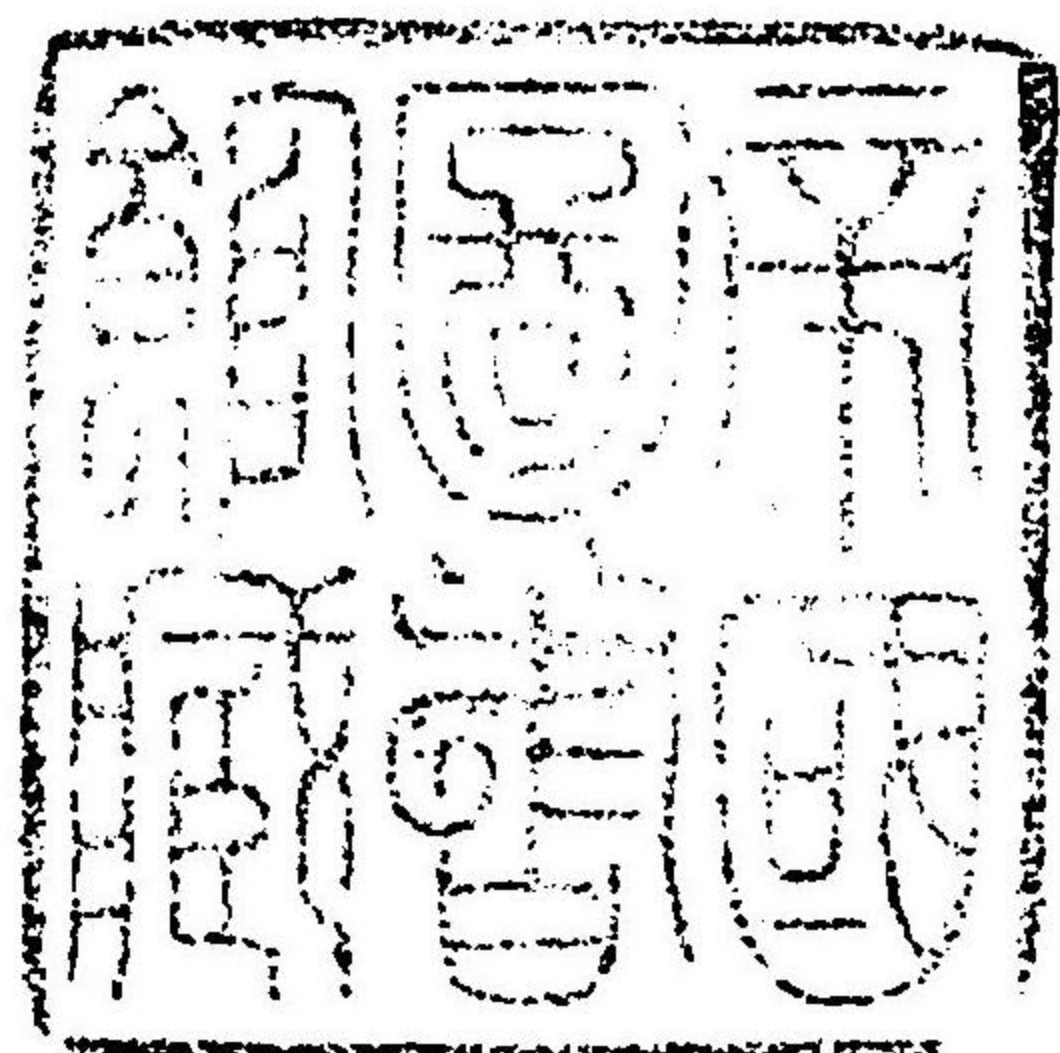


246
18
198

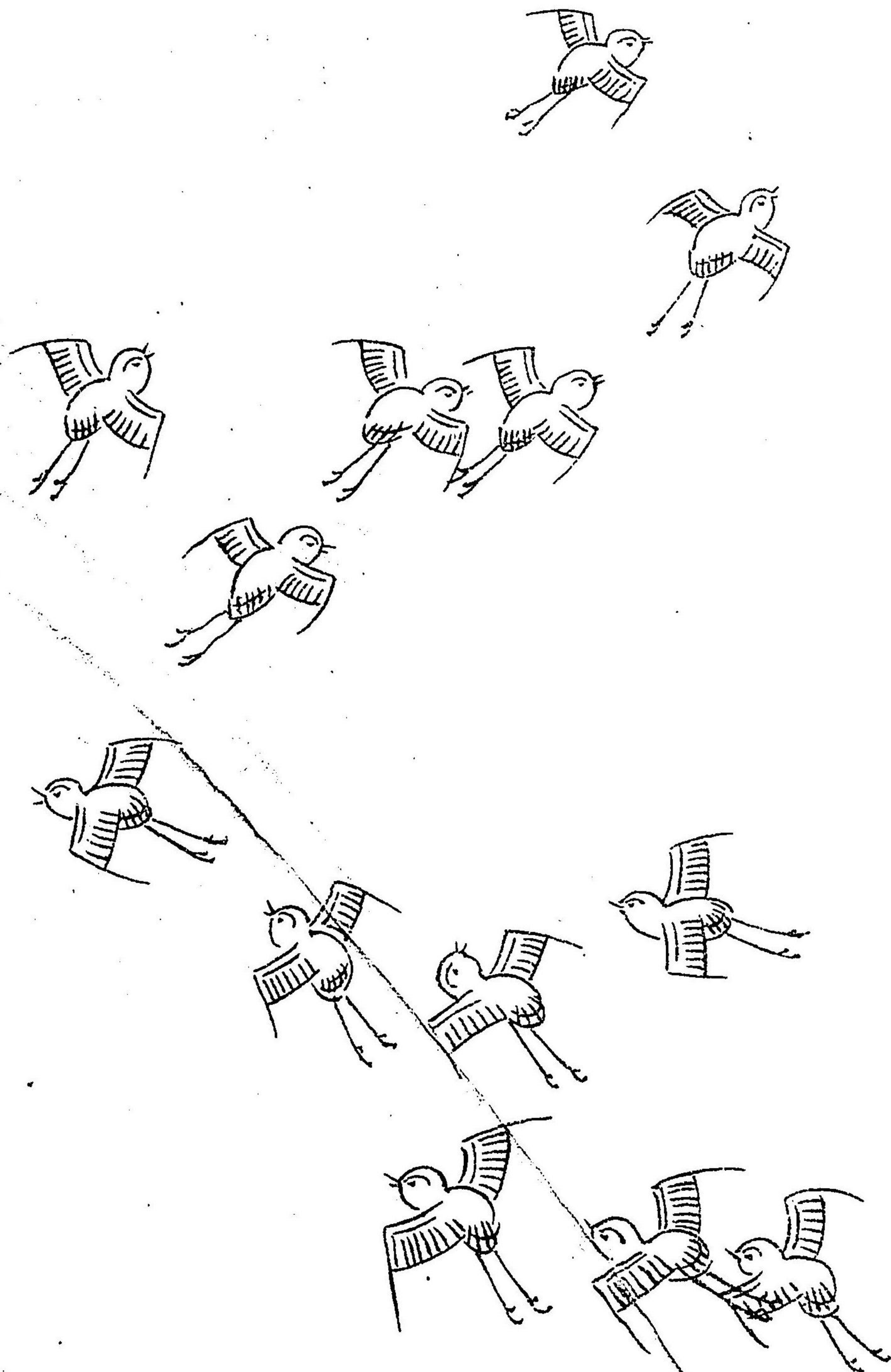
右
女
用
自
大
會

親世流改訂儒本
丙子



清觀之世
長之世

明治
43. 5. 31
内交



文學博士 井上秋國 本文監修

丸岡柱 本文訂正

親世清之 節附訂正

脇能

右(カ) 延(コシ)

三月ツレテ
ワキ神女
北野神前女

早(サキ) 方(カタ) 山(ヤマ) 長(チカ) 雨(アメ) 雲(クモ) 居(イ) の 春(ハル)
 三(ミ) 人(ヒト) 当(トキ)
 職(シヨク) 行(ユク) 某(ナニ) の 狀(カタチ) 子(コ) あり ちれ 汝(ニ) 度(タビ) 都(ツ)
 よ(ホ) 久(キウ) 洛(ラク) 陽(ヨウ) の 名(ナ) 花(ハ) 殘(ノボレ) の あり 一(ヒト) 見(ミ) 侍(サマ)
 又(マタ) お 野(ノ) 右(ミ) 左(サ) 馬(ウマ) 場(バ) の 花(ハ) 今(イマ) と
 感(カン) ず(ズ) あり 承(ウケ) り 承(ウケ) り 向(ムカ) 今(イマ) 今(イマ) 右(ミ) 左(サ) の 馬(ウマ)

場の花を眺めたりとかなるの^{ミヤ}馬^{ウマ}を
 行くぞなな^ウち^ウへ^ウ櫻^ウ将^ウへ^ウ。雨^ウの^ウ際^ウ
 りかぬ同^ウく^ウ儂^ウの^ウも^ウた^ウら^ウる^ウは^ウ
 ぞい^ウち^ウ宿^ウら^ウる^ウ松^ウの^ウ行^ウく^ウの^ウ目^ウも^ウ
 指^ウより^ウお^ウ野^ウの^ウ林^ウも^ウち^ウづ^ウく^ウ。右^ウ近^ウ
 の馬^ウ場^ウも^ウ着^ウか^ウる^ウは^ウく^ウ。甲^ウ指^ウの^ウ
 夜^ウよ^ウの^ウし^ウら^ウも^ウお^ウの^ウ馬^ウ場^ウの^ウ目^ウも^ウ

して^ウも^ウの^ウ目^ウも^ウの^ウ目^ウも^ウ
 きて^ウ車^ウも^ウの^ウ目^ウも^ウの^ウ目^ウも^ウ
 白^ウの^ウ目^ウも^ウの^ウ目^ウも^ウ
 と^ウなる^ウの^ウ目^ウも^ウの^ウ目^ウも^ウ
 時^ウの^ウ目^ウも^ウの^ウ目^ウも^ウ
 け^ウの^ウ目^ウも^ウの^ウ目^ウも^ウ
 ぞ^ウの^ウ目^ウも^ウの^ウ目^ウも^ウ

車前より春毎に傍らに石谷の甲侍。
氣多しなまの元見車は直に直見
して標のきしよの上より。
の馬場しおの向うに敷もむよ
新白寺の春しきりも天満寺の
は幸の跡古くして松もすも梅も枝
のきなむも回してはのねを車は
の

日の轉や小の鏡くらん。園
ある道はまのそと見かして。か
場しきりの標は後踏む為に
かまらぬの鏡も人を見ても
まも入るのまもまも車も
せり。向うも目もまも車し
らある昔は田舎の馬場

見よみぬ人も花の支くちも
ぬも花の蔭相宿りして諸人の
つらありて花車に撮立てて
下より花を眺めしげや花
の下の海らるる花を
りて花にぬれそめて眺め
かくぬれぬも花を
中

い行くあが花を
また花の宮にぬれぬ
心ありて花を
野の花も花の
なや眺むる花の
又わたる花の
を花に花の

染のきしめて梅枝を老松の
緑より削りかき一皮松も目えた
り目敷の室もあるま
野行き標野行き
や唐が袖古まの草花物目して車
もまつる唐園のぞは神の旅
居の谷や馬場ちたり神まご

導りひらあはかたはな

あーもあへ倍つはよはし

ホシホシなほく教へあは

真のちては神のまはと見ん者

代はあてしあはし

同ひがあはたは

まはりてのあはし

一、カはまのこゝろあはれしむるもよほし
 ちかみのこゝろあはれしむるもよほし
 りも有可し。のこゝろあはれしむるもよほし
 文照のこゝろあはれしむるもよほし
 野の標義のこゝろあはれしむるもよほし
 日の徳神樂のこゝろあはれしむるもよほし
 りも有可し。のこゝろあはれしむるもよほし

早止待詠

一、早止はまのこゝろあはれしむるもよほし
 書かぬ馬のこゝろあはれしむるもよほし
 真ありはるあはれしむるもよほし
 りも有可し。のこゝろあはれしむるもよほし
 馬場の春の信のこゝろあはれしむるもよほし
 りも有可し。のこゝろあはれしむるもよほし
 慶和老の教のこゝろあはれしむるもよほし

ふらふら子標衣は裏あき返す指よ
あがり枝よま侍よ花鳥のよさよ
翔り雲よ侍の雲よさき雲の羽
し。雲よあがりや雲は羽風よ神
ふらふら子標衣は裏あき返す指よ

五番目
畧二番

早白

これ九州松浦湯より出でたる傳は

いり来た都と見ぎる程よはは思

ひきま都よりゆるのやい又おしし松

浦の里よりまらせでく末不知火の

待は湯より後書はる旅の道

ま。雲よあがり
ま。雲よあがり

女中花

八月
ワツキ

小野横風前老翁
小野横風ノ妻
僧

しんかひ舞の園を葎のいんかひ也。園
の葎のさかやけはにききくはに葎はさ
しあひ也。さかやけはに葎のいんかひ
あしだ。葎のいんかひのいんかひ
葎のいんかひのいんかひのいんかひ
さかやけのいんかひのいんかひのいんかひ
さかやけのいんかひのいんかひのいんかひ

手織の衣織のいんかひのいんかひの
いんかひのいんかひのいんかひの
いんかひのいんかひのいんかひの
いんかひのいんかひのいんかひの
いんかひのいんかひのいんかひの
いんかひのいんかひのいんかひの
いんかひのいんかひのいんかひの
いんかひのいんかひのいんかひの
いんかひのいんかひのいんかひの
いんかひのいんかひのいんかひの

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

ミナトノサキニシテハサカサカニ咲ク花ノ如ク

心持^{マテ}ノシ^スレバ^カハス^ル心^コノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 佛^{ブツ}ノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ

心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ

心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ
 心^ホカ^スル^ナキ^ニノ^チカ^ハシ^スル^ナキ^ニ

まゝくもくはつしんはるはるはるはるはる
ななくをくうはるはるはるはるはるはる
着くあつあつはるはるはるはるはるはる
下の家軒とまゝはるはるはるはるはるはる
にありはるはるはるはるはるはるはるはる
とあつあつはるはるはるはるはるはるはる
唐くまはるはるはるはるはるはるはるはる
唐くまはるはるはるはるはるはるはるはる

●福今

かゝるはるはるはるはるはるはるはるはる
あるお振可やあ振又や之堅はるはる
れ枝の男とくもくはるはるはるはるはる
公義も照つ保ひて母もあつはるはるはる
石清水守はるはるはるはるはるはるはる
よ敷つるはるはるはるはるはるはるはる
の神宮寺あつはるはるはるはるはるはる
の神宮寺あつはるはるはるはるはるはる
の神宮寺あつはるはるはるはるはるはる

なつていふくはしきふに男家のいふ方
あつて女家のいふ男家の女として女
部のたの得のいふお家のいふは
中よりいふか其か家のいふの國
に行處若ものいふおのいふ女
都のいふ男のいふ情のいふ野の頼に
と申し入るゝいふおのいふいふ倍

なつていふくはしきふに男家のいふ方
あつて女家のいふ男家の女として女
部のたの得のいふお家のいふは
中よりいふか其か家のいふの國
に行處若ものいふおのいふ女
都のいふ男のいふ情のいふ野の頼に
と申し入るゝいふおのいふいふ倍

徒ありわが境ありては思ひて骨

と幸ひ猶敷く梅もさるる軽き哉

なうらや同の昔の我は女上り

流るる夢の葉の舞らも車入れよ妹

背のばは清き魂の女も花

けは婿の親をいれたるあもあな

床の影のさるる魂の道を

又者あは頼む花のさるる
か一葉をたおほくもひはかおん
思ひわひの行本は都
獨あもあもさるる花も花は思ひ深
かたまたまにさるる花の心 梅に
かたまたまにさるる花の心 梅に
かたまたまにさるる花の心 梅に

あはれいふこそ思ふはふに
 死はなるべしとてあはれいふ
 籠りてはあはれいふは
 なるべしとて思ふはふに
 しはあはれいふはふに
 あはれいふはふに
 袖はあはれいふはふに

あはれいふこそ思ふはふに
 死はなるべしとてあはれいふ
 籠りてはあはれいふは
 なるべしとて思ふはふに
 しはあはれいふはふに
 あはれいふはふに
 袖はあはれいふはふに

七

十

一 水に沈む者も、
 一 偏にわらわすも、
 一 身もあてし、
 一 續いて、
 一 籠めより、
 一 来りたり、
 一 跡弔ひて、
 一 入るく

「仕舞」の語

上又
 一 身と青あてし、
 一 身もあてし、
 一 續いて、
 一 籠めより、
 一 来りたり、
 一 跡弔ひて、
 一 入るく

御書

十

出^カし物^カ借^カりて^カ承^カら^カざ^カり^カて^カな^カり^カぬ^カ
 記^カした^カる^カ深^カく^カと^カ衰^カれ^カる^カ時^カは^カ事^カの^カ
 初^カは^カ七^カ口^カの^カま^カり^カあ^カり^カぬ^カ程^カ
 五^カ七^カの^カ年^カ向^カて^カる^カ事^カ行^カは^カる^カ律^カの^カも^カと
 又^カ事^カと^カ盡^カして^カ數^カ島^カの^カ過^カを^カ
 致^カし^カの^カ糸^カは^カて^カ織^カり^カ錦^カた^カた
 薄^カた^カり^カて^カ歸^カり^カて^カ大^カ昔^カの^カ露^カれ^カ玉^カ琴^カ

あ^カら^カあ^カま^カに^カお^カも^カて^カあ^カり^カた^カ
 心^カを^カ借^カり^カて^カ承^カら^カざ^カり^カぬ^カ
 衣^カの^カ肌^カと^カ露^カれ^カる^カも^カあ^カり^カぬ^カ
 又^カ便^カあり^カて^カ雨^カの^カ音^カを^カあ^カら^カぬ^カ
 心^カを^カ借^カり^カて^カ承^カら^カざ^カり^カぬ^カ
 心^カを^カ借^カり^カて^カ承^カら^カざ^カり^カぬ^カ

... 終ハレノ春ハレノ眞ハレノ可ハレノ春ハレ...
... 昔ハレノ春ハレノ春ハレ...
... 一ハレ... ハレ...

カハレトシヨウキニシヨウキハレトシヨウキ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ

カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ
カハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレハレ

美しき一清の露の露の精の
しほの露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の

けの露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の
の露の露の露の露の露の露の

夜の色を飾りて敷めの柵つくつ
まの口より花の錦の園の起
臥あり身あり心あり直ま
るまの敷かへ麻あるまの
鐘の聲春行を帯とすあれど
も老母より益もあり坂の山風の
是れ感法の理をいづれば花

添葉してさうくぬける清ら
の月を観るありつ筆を染めて
深遠なる書くまの枝のたぐ
よ長あつたふらふらぬら
女の髪あつたふらふらぬら
うけつたふらふらぬら
十ののちをいづるまの

作今て舞の袖をみ昔舞し舞の五
 節の舞袖の袖をみみ心度後し
 けしきいひけたりし年向の袖あきか
 びしきもあきかお人きくも不
 ぐもみいひしきして舞袖七袖の
 引りてお人きくもくはせし
 上男 舞 百平にたは宿り却舞の舞長

あしきさの舞の枝はみ袖
 も手系へ裳裾も舞袖
 およびのさしき舞り袂の袖さ
 昔は後ま袖のあきか
 しはさしきおきか初秋に袖
 舞の袖をみみ心度後し
 りもきくもあきかお人きくも不

つばの慰めよナグサ。法セツホオイチザ一ツル味ミ入ルの道ドオ。
 所備コオガにアガりホツ發ツクの証カチおキちナるレ。
 中ミ侍ツシ又マタ殺コロしてモ白モきク代イ教キョウをシ殺コロしテ年ネン危キ
 宵ホホ號ゴウとセしテ侍ツシ佛ブツ十ジュウ方ホウのサツ薩サツ埴チ中チュウ
 してモ白モきク縁エン種シュ多タ殺コロ屠ツ心シン慍インわカこ
 れレ何ナニ浦ウラをシテシびビらラ△ヲ美ミ
 しキまマ紬チュウとシるルきキはハゞゞのノ飄ヒョウ浦ウラ又

をシテシびビらラ△ヲ美ミ
 浦ウラのノ子コ。三サン寶ホウ象シヤウ傳デンのノ布フ施セ一イツ裏リ右ウ
 志シまマ可カ二ニ親シン聖シヨウ靈リヨウ頓トン沈シン津ツ津ツ津ツ津ツ津ツ
 めメのノ身ミ代ダイ衣イ一イツ重チュウにニ實ジツはハ供キョウ養ヤウすスまマるル。
 上ウヘのノ西サイ美ミのノ會エ女メがガ一イツ衣イをシ傳デンはハ供キョウせセらラるル。
 身ミ後ゴのノ女メのノ縁エン今イマれレ會エ女メのノ親シン
 のノためタメヨヨクク身ミ代ダイ衣イをシ傳デンはハ供キョウ養ヤウすスまマるル。
 上ウヘのノ身ミ代ダイ衣イをシ傳デンはハ供キョウ養ヤウすスまマるル。

せの中さくせで。老考先好諸共は。
 同景よまはんと。續又ぶげは。自然
 片上墨染の袖と。濡らさず。敷れ聽
 衆もさくし。袖と濡らさぬ。人いあ
 早く
 く。おつゝ。ある者。は。東國が。人
 高人。と。なる。わ。は。度。都。よ。ら。敷。多。人
 と。買。ひ。取。り。し。る。又。十。四。五。が。あ。つ。た。あ。る。女

と。買。ひ。取。り。し。る。か。の。よ。り。の。同。暇
 と。さ。く。し。し。る。か。の。よ。り。の。同。暇
 の。さ。く。し。し。る。か。の。よ。り。の。同。暇
 の。さ。く。し。し。る。か。の。よ。り。の。同。暇
 の。さ。く。し。し。る。か。の。よ。り。の。同。暇
 の。さ。く。し。し。る。か。の。よ。り。の。同。暇
 の。さ。く。し。し。る。か。の。よ。り。の。同。暇
 の。さ。く。し。し。る。か。の。よ。り。の。同。暇

乃の解事^{ヒガユト}を以て稽首^{ヒツク}す。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 今^{イマ}の世^セに於ては。高^{タカ}くあがき。

 國^{クニ}の^{ウチ}に^ニあり。津松^{ツマツ}は^ハ其^{ソノ}まに^ニ在^リり。

 今^{イマ}の世^セに於ては。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 今^{イマ}の世^セに於ては。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 今^{イマ}の世^セに於ては。法^{ホウ}を以て師^シとす。

法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

 法^{ホウ}を以て師^シとす。法^{ホウ}を以て師^シとす。

持てて入る。...

ニテモタマハ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

まゝ^{シテ}水の煙の震^{カスミ}と^{ヒトカスミ}に^{フタ}震^{カスミ}と^{ヒト}に^{シテ}震^{カスミ}と

二^{フタ}返^{シテ}あるごとく^{カレ}今^{イマ}薄^{ウソ}き^カる^シ中^{ナカ}は

い^イだ^ダ一^{ヒト}權^{ケン}母^ボと^ト併^ヒ事^ジの^ノ早^{ハヤ}の^ノ同^{ドウ}く

も^モ味^{アジ}に入^イら^レた^ルた^ルつ^ツ扱^アい^イ何^{ナニ}の^ノ田^タの^ノ心^{ココロ}に^ニて

い^イに^ニ自^ジ己^ジの^ノ所^{トコロ}を^ヲ申^マせ^テ後^{ノチ}返^カる^ル者^{モノ}と

い^イふ^フと^ト其^ノの^ノ邊^ヘの^ノ邊^ヘの^ノ申^マせ^テ申^マし

と^ト申^マす^ルた^ルう^ウと^ト申^マす^ルは^ハ道^{ミチ}邊^ヘを^ヲ兼^カへ^テ給^ル

い^イふ^フと^ト其^ノの^ノ邊^ヘの^ノ邊^ヘの^ノ申^マせ^テ申^マし

い^イふ^フと^ト其^ノの^ノ邊^ヘの^ノ邊^ヘの^ノ申^マせ^テ申^マし

い^イふ^フと^ト其^ノの^ノ邊^ヘの^ノ邊^ヘの^ノ申^マせ^テ申^マし

い^イふ^フと^ト其^ノの^ノ邊^ヘの^ノ邊^ヘの^ノ申^マせ^テ申^マし

い^イふ^フと^ト其^ノの^ノ邊^ヘの^ノ邊^ヘの^ノ申^マせ^テ申^マし

い^イふ^フと^ト其^ノの^ノ邊^ヘの^ノ邊^ヘの^ノ申^マせ^テ申^マし

い^イふ^フと^ト其^ノの^ノ邊^ヘの^ノ邊^ヘの^ノ申^マせ^テ申^マし

い^イふ^フと^ト其^ノの^ノ邊^ヘの^ノ邊^ヘの^ノ申^マせ^テ申^マし

子葉まらぬ。録よ。汝者。と。賜。を。ら。せ。ま。い。
 け。い。の。旨。を。あ。げ。し。て。授。け。り。と。申。す。は。ま。ら。ぬ。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。

●サシクセ御事

行。き。出。て。な。り。と。申。す。は。ま。ら。ぬ。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。
 ぬ。ま。の。旨。を。あ。げ。し。て。賜。を。ら。せ。ま。い。と。申。す。は。

●仕舞

中
字のやゝと藤葉のしづかしの
室の葉のむすむすの葉のむすむす
つぼみ葉のむすむすの葉のむすむす
も柳の葉のむすむすの葉のむすむす
よのり秋風路のむすむすの葉のむすむす
まじりばなむすむすの葉のむすむす
あまの葉のむすむすの葉のむすむす

中
鳥の葉のむすむすの葉のむすむす
七葉の葉のむすむすの葉のむすむす
千歳の葉のむすむすの葉のむすむす
あまの葉のむすむすの葉のむすむす
又あまの葉のむすむすの葉のむすむす
りあまの葉のむすむすの葉のむすむす
あまの葉のむすむすの葉のむすむす

わが世に於ては、
神の御心は、
我々の心よりも、
大に廣く、
大に深く、
大に高く、
大に遠く、
大に清く、
大に正しく、
大に美しく、
大に麗しく、
大に尊く、
大に貴く、
大に尊貴なり。
我々の心は、
神の御心と、
同く清く、
同く正しく、
同く美しく、
同く麗しく、
同く尊く、
同く貴く、
同く尊貴なり。
我々の心は、
神の御心と、
同く清く、
同く正しく、
同く美しく、
同く麗しく、
同く尊く、
同く貴く、
同く尊貴なり。

わが世に於ては、
神の御心は、
我々の心よりも、
大に廣く、
大に深く、
大に高く、
大に遠く、
大に清く、
大に正しく、
大に美しく、
大に麗しく、
大に尊く、
大に貴く、
大に尊貴なり。
我々の心は、
神の御心と、
同く清く、
同く正しく、
同く美しく、
同く麗しく、
同く尊く、
同く貴く、
同く尊貴なり。
我々の心は、
神の御心と、
同く清く、
同く正しく、
同く美しく、
同く麗しく、
同く尊く、
同く貴く、
同く尊貴なり。

本邦の諸君に
 此の書を送るに
 由りて其の意を
 明かにせしむる
 事あり。其の意
 は、本邦の諸君
 に此の書を
 送るに由りて
 其の意を明かに
 せしむる事あり。

此の書は、本邦
 の諸君に送るに
 由りて其の意を
 明かにせしむる
 事あり。其の意
 は、本邦の諸君
 に此の書を
 送るに由りて
 其の意を明かに
 せしむる事あり。

と殿さまの御心遣い...
上高の御心遣い...
の御心遣い...
り...
地...
あ...
後...
サ...

薩...
神...
業...
聲...
降...
と...
げ...
サ...

時^{トキ}夜^ヨち^チよ^ヨ。信^シん^ンじ^ジを^ヲ發^ハし^テ。徳^{トク}の^ノ源^ネ。
眼^メ又^マ心^{シン}を^ヲ令^シ頂^タれ^ト。
恩^{オン}教^{キョウ}を^シ釋^シめ^テ。好^コ愛^{アイ}と^シ。慈^ジ教^{キョウ}を^シ持^チま^ス。
ほ^ホん^ンの^ノ領^{リョウ}を^シ。震^シ動^{ドウ}一^ニ率^ニ。
釋^シま^ス。り^テ。珍^メし^ク。同^{ドウ}の^ノ矢^ヤ物^{モノ}。
の^ノ發^ハせ^テ。心^{シン}を^ヲ令^シ頂^タれ^ト。
よ^ヨ。果^カ那^ナの^ノ同^{ドウ}の^ノ地^チの^ノ一^ニ率^ニ。
上音 甲 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸 子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

釋^シ現^{ゲン}を^シ。數^{スウ}の^ノ廣^{クワウ}を^シ。あ^アら^ラま^ス。
お^オせ^セ。あ^アつ^ツ。心^{シン}を^ヲ令^シ頂^タれ^ト。
て^テ。自^ジを^ヲ令^シ頂^タれ^ト。
慈^ジの^ノ心^{シン}を^ヲ令^シ頂^タれ^ト。
驚^{キョウ}を^シ。心^{シン}を^ヲ令^シ頂^タれ^ト。
信^シん^ンじ^ジを^ヲ令^シ頂^タれ^ト。
も^モ。心^{シン}を^ヲ令^シ頂^タれ^ト。
あ^アら^ラま^ス。
あ^アら^ラま^ス。
あ^アら^ラま^ス。

此。忍。の。心。を。持。し。申。せ。り。幸。に。即。ち。
 云。路。を。さ。し。て。お。も。ひ。を。終。り。其。時。天。
 物。の。根。を。信。じ。し。る。も。と。も。見。え。り。
 岩。根。を。信。じ。し。る。も。と。も。見。え。り。
 岩。洞。の。

明治四十三年五月二十日印刷
 明治四十三年五月廿五日發行

訂正者、檢印
 ナキモノ、ハ偽版也



訂正兼 發行者 丸岡 桂

印刷者 塚原錦三郎

印刷所 凸版印刷株式會社

東京市麹町區中六番町廿九番地

發行所

觀古流改訂本刊行會

電話番町二五四四番



